

石見神楽

～島根県立大学・島根県立大学短期大学部 成蹊大学との連携協定締結記念イベント

2018 年 6 月に、島根県立大学・島根県立大学短期大学部と成蹊大学は包括連携協定を締結いたしました。これを記念し、成蹊大学で石見神楽(いわみかぐら)の公演を行います。当日は、島根県立大学の教員による石見神楽に関する講演に続き島根県立大学の学生を中心とした「舞濱社中」、さらには現地の伝統的社中である「宇野保存会」のメンバーによる演舞を行います。学生や生徒、市民の皆様など、多くの方々のご来場をお待ちしております。



石見観光振興協議会 提供

日 時：2019 年 3 月 23 日（土）15：00～17：00 ＊開場は 14：30 を予定。

場 所：成蹊大学 4 号館ホール

主 催：成蹊大学、島根県立大学・島根県立大学短期大学部

定 員：400 名（先着順）

参 加 費：無料

申込締切：3 月 20 日（水）

申込方法：事前予約が必要です。予約方法は右上の QR コードまたは成蹊大学ホームページにある申込フォームより必要事項を入力のうえ、お申し込みください



＊万が一開催できない状況となった場合には以下のホームページにてお知らせします。

＊申込者数が定員を超過した場合には、申込締切とさせていただきます。

成蹊大学ホームページ：<https://www.seikei.ac.jp/university/>

【石見神楽について】

石見神楽

日本の伝統芸能といえば、狂言や歌舞伎、能などを思い出す人が多いかもしれませんが、「神楽」は、かつては日本全国で盛んに行われていた我が国最古の芸能です。その歴史をひもとくと、日本神話のなかの「天岩戸（あまのいわと）伝説」にまでさかのぼり、岩戸にお隠れになった天照大御神（あまてらすおおみかみ）を誘い出すために、天鈿女命（あまのうずめ）が岩戸の前で舞った踊りが起源だといわれています。

1 演目「塩祓（しおはらい）」/舞濱社中

一人又は二人で舞う。
神を迎える前に、その場を清めるための舞。神社で行われる奉納神楽では、1 番最初の演目となり、東西南北を清めることから『四方祓い』と呼ばれることもある。

「島根から全国へ石見神楽を発信していきます！」 舞濱社中一同

2 演目「塵輪（じんりん）」/舞濱社中

舞濱社中による上演八調子では神 2 人・鬼 2 人が対決する、鬼舞の代表的な神楽である。第 14 代天皇・帶中津日子（たらしなかつひこ）が、異国より日本に攻め来る数万騎の軍勢を迎え撃ち、その中に身に翼があり黒雲で飛びまわる「塵輪（じんりん）」という悪鬼が、人々を害していると聞き、天皇自ら天の鹿兒弓（あめかごゆみ）、天の羽々矢（あめはばや）をもってこれを退治するのである。

3 演目「大蛇（おろち）」/宇野保存会

悪業のため高天原を追われた須佐之男命が出雲の国・斐川にさしかかると、老夫婦が嘆き悲しんでいた。理由を尋ねると、夫婦には八人の娘がいたが、大蛇が毎年あらわれて、七人の娘を食われ、今度が最後に残った娘なるという。それを聞いた命（みこと）は、大蛇退治を約束し、大蛇に毒酒を飲ませ、酔った所を退治した。この時、大蛇の尾から出た剣は、天の村雲の剣（のちの草薙の剣）として天照皇大神に献上され、三種の神器の一つとして今も熱田神宮に祀られており、須佐之男命は助けた娘、奇稻田姫と結婚したのである。



神楽の様子がわかる動画／「石見観光振興協議会」より

<http://www.all-iwami.com/contents/kagura/enmoku/orochi/>

【島根県立大学、島根県立大学短期大学部と成蹊大学の包括連携について】

2018 年 6 月 1 日、成蹊大学と島根県立大学は教育・研究面における包括連携協定を締結しました。この連携協定は、故・宇野重昭名誉教授が島根県立大学初代学長を務められていたことが縁で実現したものです。両大学間では、それまでも教育間の研究交流が行われていましたが、現在は締結を機に、両大学の学生・教職員が、研究、地域貢献、産学連携などの分野においても協力や連携の促進を図っています。

■成蹊大学へのアクセス



・JR 中央線・総武線（東京メトロ東西線）・京王井の頭線 吉祥寺駅下車
吉祥寺駅より徒歩約 15 分
吉祥寺駅北口バス乗り場 1・2 番より関東バス約 5 分 成蹊学園前下車

・西武新宿線 西武柳沢駅下車
西武柳沢駅南口より関東バス（吉祥寺行）約 15 分 成蹊学園前下車

* 学内駐車場のご利用はできません。自動車での来校をお控えいただくか、お近くのパーキングをご利用ください。 成蹊大学庶務運営課（0422-37-3531）